

■パネル討論

CITPの現状と未来 ～社会価値創造への挑戦～

司会

日本電気(株) 赤坂亮

パネリスト

情報処理学会 資格制度運営委員会 委員長 旭寛治

情報処理学会 CITPフォーラム代表 平林元明

(株)中電シーティーアイ 取締役人財開発センター長 松田信之

富士通(株) 畠山卓久

パネルディスカッション C I T Pの現状と未来 ～社会価値創造への挑戦～

資格制度の変遷

1958年



1970年



2014年



C I T Pの現状と未来

2016年

2020年

2030年

① C I T Pとは

情報処理技術者、技術士との違い
目的、背景、人物、スキル

② I T業界の将来

P E S T分析（政治、経済、社会、技術）の変化

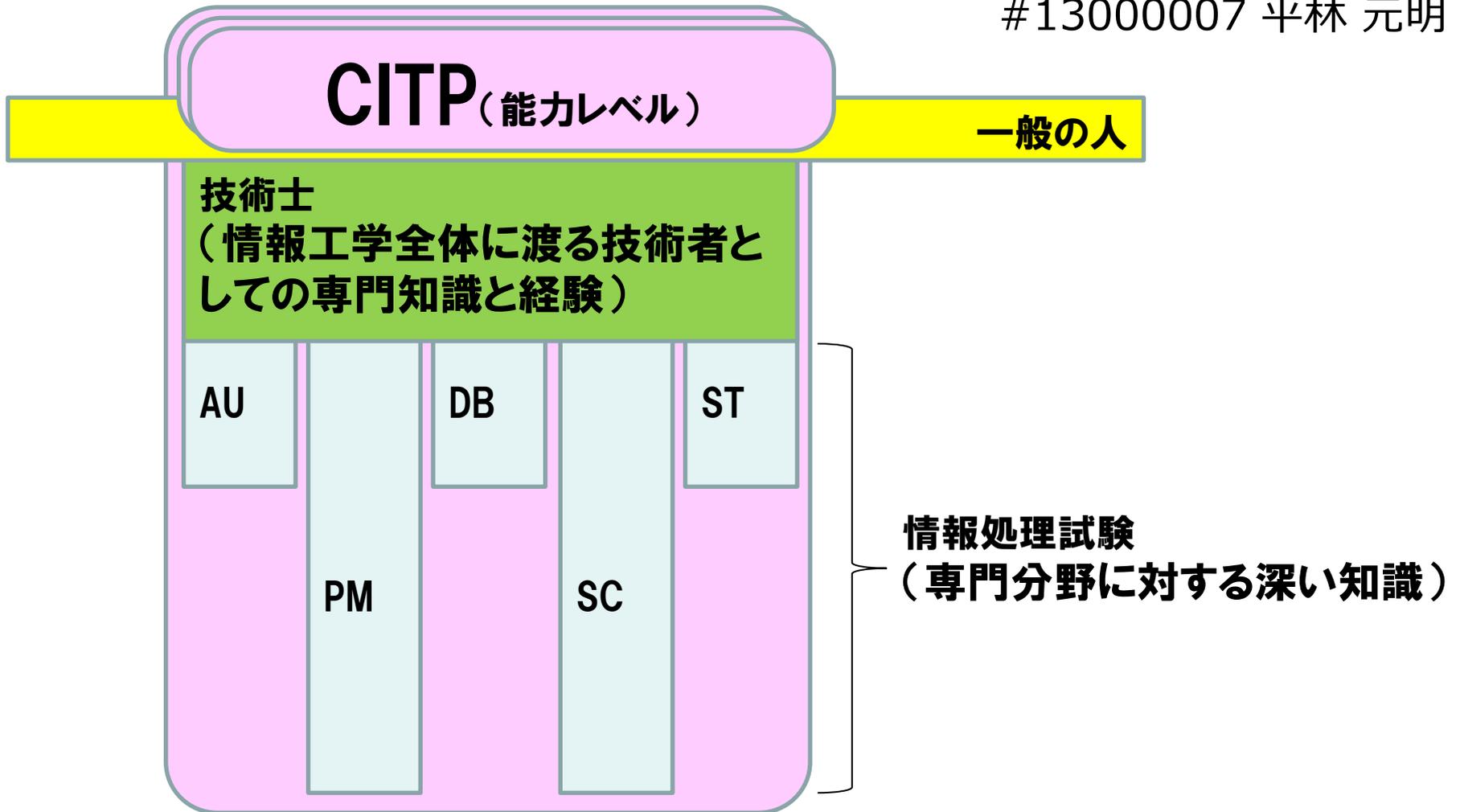
④ 社会価値創造

価値共創、デジタル化、
イノベーション、攻めのI T投資
今後5年間でC I T Pの価値貢献でできること

③ C I T Pの未来像

I T業界の将来変化に対して、C I T Pがどう向き
合うか
いま、C I T Pができることは レベル5、レベル6、
国際認定、グローバル

CITPのスコープ



高度IT人材のレベル感と役割

レベル \ 工程	企画	基本設計&ポリシー	構築 & 提供	視点
レベル6 (社会的)	主導 (経営と社会)	統制 (判断と大規模)	責任	価値
レベル5 (能動的)	主体 (業務とシステム)	主導	統制 (大規模)	効率,利益
レベル4 (主体的)		主体 (アーキテクチャ)	主導 (リード)	完成
レベル3 (受動的)			主体 (作成)	実現,専門

本表は個人の見解を示しています